

会 議 録

会議名		平成 27 年度第 2 回相模原市障害者自立支援協議会				
事務局 (担当課)		相模原市社会福祉事業団 障害者支援センター松が丘園 電話 042 - 758 - 2121				
開催日時		平成 27 年 10 月 14 日 (水) 午後 3 時 ~ 午後 5 時 15 分				
開催場所		障害者支援センター松が丘園 3 階・研修室				
出席者	委員	出席 17 人 欠席 5 人				
	その他	/				
	事務局	5 人 市：障害政策課 2 人 社会福祉事業団：地域支援課長 他 2 人				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0 人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		/				
会議次第		1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1) 各部会の報告 (2) 研修について (3) その他 4 事務連絡 5 閉会				

平成 27 年度第 2 回相模原市障害者自立支援協議会委員出欠状況

No	区 分	所属・職	氏 名	出欠
1	障害者等関係団体	相模原市障害福祉事業所協会 会長(福風の谷 常務理事)	なかしま ひるゆき 中島 博幸	出
2		相模原市障害福祉事業所協会 会計(福らっく 理事長)	すずき すみえ 鈴木 純恵	出
3		相模原市障害者地域作業所等連絡協議会 会長	ながもり ともひさ 長森 知尚	欠
4		橋本障害者地域活動支援センター ぷらすかわせみ 施設長	なかたに まさよ 中谷 正代	出
5		(福)相模原市社会福祉協議会 福祉推進課長	たどころ まさし 田所 雅	出
6		相模原福祉オンブズマンネットワークスーパバイズオンブズマン	わたなべ ゆきお 渡辺 幸雄	欠
7		相模原市民生委員児童委員協議会 常任理事	えもと すすむ 江本 進	出
8	指定相談支援事業者	相模原市障害福祉事業所協会 総務(くりのみ学園 施設長)	いまい やすのり 今井 康雅	出
9		子ども相談支援リボン	ちや ふみこ 千谷 史子	出
10	障害者等及びその家族	特定非営利活動法人相模原市障害児者福祉団体連絡協議会 副会長	はねだ ひさし 羽田 彌	出
11		特定非営利活動法人相模原市障害児者福祉団体連絡協議会 役員	しまもり まさこ 島森 政子	出
12		特定非営利活動法人相模原市障害児者福祉団体連絡協議会 役員	かたおか かよこ 片岡 加代子	出
13	保健・医療関係者	相模原市医療ソーシャルワーカーの会(北里大学東病院 医療ソーシャルワーカー)	だいなか たく 堤中 拓	出
14	教育関係機関の職員	神奈川県立相模原中央支援学校 支援連携グループ長 総括教諭	いはら ひさこ 飯原 久子	出
15		教育局学校教育部学校教育課担当課長	まつだ ともこ 松田 知子	出
16	関係行政機関の職員	健康福祉局福祉部参事(兼)障害政策課長	かわさき としゆき 河崎 利之	出
17		健康福祉局福祉部精神保健福祉センター 所長	ししくら くりえ 宍倉 久里江	出
18		健康福祉局福祉部南障害福祉相談課長	みやお だいさく 宮尾 大作	欠
19		健康福祉局福祉部陽光園主幹(兼)療育相談室長(兼)発達障害支援センター 所長	やまぐち まさと 山口 正人	欠
20		健康福祉局こども育成部緑こども家庭相談課長	たにはた はまえ 谷畑 はま江	欠
21		健康福祉局こども育成部児童相談所 総括副主幹(相談班担当)	えなり ひろし 江成 浩史	出
22	学識経験者	田園調布学園大学 教授	むらい ゆういち 村井 祐一	出

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

1 開会

事務局より欠席者の確認。

2 会長挨拶

村井会長より挨拶。

3 議事（ : 会長、 : 委員、 : 部会長、 : 事務局の発言）

（ 1 ）各部会の報告

ア 相談支援技術向上部会（海老沢部会長）

< 報告内容 >

- ・この部会は相模原における相談支援技術の向上のための環境整備に焦点を当て、検討を進めている。平成26年度までは相談支援に必要な情報を集約するためのアセスメントシート作成等を実施していた。平成27年度は相談支援専門員の基礎研修で使用するテキストを完成させる予定である。テキストでの記載事項を共通基盤とし、「相談支援はソーシャルワークである」ことを前提に、官民協働を推進することを期待している。
- ・平成26年度個別支援検討部会における課題を分析し、相談支援技術の視点を抽出した。

【相談支援技術の視点】

相談支援専門員の視点と役割

支援していく中では様々な役割があり、相談支援専門員が果たしていく役割を明確にしていく。

行政との役割分担について

官民協働がキーワード。南区と緑区に相談支援キーステーションが設置された中、障害福祉相談課との協業および役割分担を考えていく。

相談支援専門員のネットワーク構築について

これまでの相模原の歴史の中で民間レベルの集まりはあり、その活動が力になっている。相談支援専門員はこれにどう連携し、ネットワークを構築していくのか。

相談支援専門員が困難な事案に直面する場合、ひとりの責任が重くなる。一人業務や兼務によるわかち合いの不足を補うためにも、相談支援専門員同士の横のつながりが大切である。

- ・上半期はテキスト作成ワーキング、研修企画のワーキングの活動を進めてきた。テキストは、次回全体会で提示する予定である。内容は相模原の障害福祉の歴史、その時期の活動の特色に言及するものも含まれている。このテキストを機に、広範な議論の呼び水になることを期待している。作成後全体会等での意見を基に修正を加えていきたいと思っている。
- ・研修企画ワーキングでは、実践に活かす研修を実施していくために研修内容等の検討を行っている。相談支援をテーマとした研修に参加が少ないことが課題に挙がっている。参加しやすい工夫点を検討している。

< 質疑応答/意見 >

ネットワーク構築と相互理解のためには、各団体等が事業計画、事業報告、会議録等を見せ合うことは有効である。これにより、「相手に何を頼めるのか」がわかってくる。

研修参加者が少ないという課題については、研修に参加することで、他の職員に業務を依頼することの心苦しきなどがあるとの意見もある。相談支援専門員にアンケート調査を行い、現状を把握したらどうか。

○緑キーステーションが主催しているグループスーパービジョンは様々な障害福祉サービス事業所等で開催しており、相談支援専門員だけでなく、そこに所属する職員も参加しやすくなる。研修の場所や時間を工夫してほしい。

○参加したい研修があっても、他の研修と重なってしまい参加出来ないこともある。また、兼務の職員では、様々な条件が合わないと参加できないのが現状である。

テキストの相模原の障害福祉の歴史はいつ頃からまとめるのか。

1970年頃からとなる。

テキストは貴重な資料となるのではないかと。改訂、使用方法が今後の課題となる。協議会でどのように活かしていくか検討頂きたい。

○市の相談窓口は、2～3年で人事異動があるため、職員には研修等を受けて、様々な情報を取り込んでもらいたい。

人事異動があっても人が変わることによる質の低下が起こらないように、経過記録を含めた引継ぎの仕組みについて、相模原の相談支援全体の課題と捉えていくべきである。

○障害特性に応じた支援、アドバイスが出来ているかは各障害福祉相談課・各保健福祉課の課題となっていると思う。従前は当事者・家族と市行政ケースワーカーとは1対1の関係であったが、サービス等利用計画作成等を通じて相談支援専門員が関わるようにより、以前より当事者・家族と市行

政ケースワーカーの関わりが薄くなっている場合がある。関わりが薄くなったことによる、相談支援に関する技術や支援の質が落ちないための標準化を行っていきたい。

相談記録については、重要なことを効率的に引き出せる記録作りが重要である。重要なポイントに記号等を使用し、タイトルや要約文をつけたりなどを工夫すると、記録のポイントがわかりやすくなる。

○記録の取組みは、事業者、行政、保護者(支援者)の立場、それぞれで大事だと思う。相談に行く際は、支援者の事前準備も必要だと考えている。伝えたい事などを記録し、提示するというのもサービスを受ける側のマナーではないかと思う。記録したものを提示することで、短時間に効率的に情報の共有化を図るとともに、課題を見つける鍵となる場合もある。相談は、1、2回で結論が出るものではなく、継続していくことが重要であり、お互いに歩み寄っていくものだと思う。

当事者・家族及び支援者、双方の力を引き出してより良いサービスに繋げる事は大事だと思う。

イ 相談支援事業所等連絡・調整部会（中谷部会長）

< 報告内容 >

- ・相談支援事業所間の情報交換、意見交換、事例検討を主に活動している。
- ・連絡会では、各事業所の情報交換、行政を含めた計画相談に関する事務課題を連絡し、有益の場となった。
- ・相談支援技術向上部会で検討している相談支援専門員の業務範囲、放課後等デイサービスに関する情報、児童から成人期にかけての支援について話題があがった。
- ・昨年度までは一方的な報告であったが、今年度は活発な意見交換となっている。
- ・事例検討から地域課題の抽出には至っていない。検討する中で今後、何をしていくべきなのかが見えてきた。本人、家族の意見が異なる場合には、何を大事にしていくべきか、リスクマネジメントについての意見があがった。
- ・行政の相談窓口、相談支援事業所の役割が不明確であり、それぞれが戸惑いながら支援を行っている。各地区で同様の課題があがり、今後検討する。
- ・成人期から高齢期の支援にも難しさがある。
- ・事例からあがった課題が地域特性の課題なのかもしくは市域の課題かを検討する。
- ・事例をカテゴリー別に分けることで地域課題や業務範囲を明確化していくことが出来るのではないかと。事例集として纏め、市全体で共有する予定である。

< 質疑応答/意見 >

事例をカテゴリー化し、相談支援の本質を見極めていくことは今後の考え方に繋がっていく。各地区で相談支援専門員の業務範囲に関する課題がでてくる。事例検討において相談支援のスーパーバイザーを配置し、事例に対し適切に判断する存在が必要になってくると思う。地域の規模により表出する課題は異なる。地域をどのように区切るかというのが今後の検討課題ではないかと思う。

○施設入所している児童の18歳到達後の移行先（加齢児問題）について、国は地域移行の方針である。行動障害が重く、グループホームの利用が厳しいときの受け皿としての成人の入所施設はどこも満床状態にある。

行動障害があり、地域移行が困難な方の解決方法が難しい。今度の重要な課題であるため、部会に検討するようにフィードバックして貰いたい。

○地域移行はテーマになっている。これまでは、複合的な問題を抱えている人の受け皿は施設、病院などであったが、地域全体で支える地域移行という考え方が示されている。既存のシステムでは対応できないため、これまでの視点を変えて、あらゆる立場の人から意見をいただき、どのような新たなシステムが必要なのかを考える大きな取組みになるのではと思う。

○放課後等デイサービスの利用状況について危惧していることについて詳しく伺いたい。

○毎日、放課後等デイサービスを利用することについて疑問を感じている。放課後等デイサービスによっては、食事や入浴までやってくれる事業所があると聞いている。障害によっては必要な方はおり、障害福祉サービスが行き届くのはよいが、サービスに依存しすぎるのではなく、親子で共に過ごす時間を大切に、家でしかやらせられないことや身につけさせることができないことをさせるといっても必要だと思う。自分の力を発揮できるかどうかで、本人の今後の行き方にも繋がっていくと思う。誰でも彼でも利用できる状況は課題である。

○本校（特別支援学校）の理念は、自立と社会参加を掲げており、自立として地域で生活していくと意味もあり、自力通学を重視している。放課後等デイサービスの送迎を利用することで、子どもが自分の足で地域を歩く機会が失われてしまう。ガイドヘルパーを利用したり、公共交通機関を使うことで、地域で生活するためのスキルや力を付けさせる観点も大事だと思う。地域で生活するためのスキルをどのように身に付けていくかということ保護者、放課後等デイサービス、地域を含めて検討していくことが必要だと考えている。

○緑区内にある放課後等デイサービス事業所が集まり連絡会を発足させた。各事業所は地域の課題や自立支援協議会の存在も知らずに、活動している現状があ

る。この協議会で放課後等デイサービスの話題が出て、各事業所まで下りて
いかない現状を踏まえ、協議会での課題を障害福祉サービス事業所等とも共有
する方法を検討する必要がある。

自立支援協議会便り等情報発信をしていったらどうか。

相談支援事業所向けに各放課後等デイサービス事業所の内容を把握するた
めの一覧表を作成する予定である。

ウ 権利擁護・虐待防止検討部会（岸部会長）

<報告内容>

- ・平成25年度・平成26年度部会で話し合われた内容について、「養護者による
障害者虐待防止について」という小冊子にまとめた。
- ・今年度は施設従事者等における虐待防止について検討している。ワーキングを
設置し、主にグループホームの現状把握をするため、アンケートを実施する予
定である。

<質疑応答/意見>

アンケートの実施予定を教えて欲しい。

今年度中にアンケートの内容を精査し、来年度実施を予定している。

○事業所協会ではグループホーム世話人向けの研修実施している。関心があれば、
参加していただきたい。

アンケートを実施すること自体が啓発となるので、双方で学習する機会が持て
たらよいと思う。「養護者による障害者虐待防止について」の冊子の配布方法
について教えて欲しい

委員の方に確認していただき、障害関係だけでなく高齢者関係の相談支援
機関等を含め配布先を検討したい。

(2) 研修事業について

「家族支援を考える」

開催日時 : 平成28年2月15日(月) 14:30~

内容 : 福山和女氏(ルーテル学院大学大学院教授) 講義

(3) その他

れんきょう・羽田氏より『障害者差別解消フォーラム』の案内。

[障害者差別解消フォーラム詳細]

開催日時 : 平成28年1月24日(日) 13:30~

内容 : パネル、野沢和弘氏(毎日新聞論説委員) 講演など

ぷらすかわせみ・施設長中谷氏より『高次機能障害講演会』の案内。

[高次機能障害講演会詳細]

開催日時 : 平成27年11月29日(日) 13:00~

内容 : 瀧澤学氏(神奈川県リハビリテーション病院・高次脳機能障害相談支援コーディネーター)、松本方哉氏(フジテレビ解説委員)講演

その他の意見

放課後等デイサービスに関しては、事業所として気になっている。意思決定支援が重要になっているが、障害児のサービスを誰が決めるかと考えたとき親になっている。親のための支援者になっていないかということが気になる。本人を中心ということについて、家族はどうあるべきか、意義のある意思決定をしていくためには、考えを共有することは大事なことだと感じた。

民生委員は900人くらいで、その内3、4割が普通の主婦の方である。障害者理解を進めることが必要だが、障害者の情報が入ってこないという意見も多い。地域に高齢者支援センターのような障害者用のセンターがあれば連携が図りやすいと思う。市から民生委員用の研修があり、それは民生委員の仕事の一つと思っている。障害者に関する全体の教育だけでなく、地域における教育も行っていくべきである。民生委員ができることからやっていきたいと思っている。

4 事務連絡(事務局)

次回の開催について

日時: 平成28年2月24日(水) 午後3時~午後5時

場所: 障害者支援センター松が丘園 3階 研修室

5 閉会

村井会長

以上